

非日常

理事長 永井 俊彦



昨年、12月30日の小池東京都知事の記者会見で「……この一週間の平均新規感染者数が700人を超えていて、2週間後には1000人を超えるであろう。……」と感染拡大を予測、発表したのである。昨年の暮れには感染力が強いと言われる変異株がわが国でも確認され、ワクチン接種の予定もたっていなかった。

こうして令和3年はコロナ禍で年が明けた。1月7日には東京都の新規感染者は2520人と過去最多となり翌8日に緊急事態宣言が発出（～3月21日）された。昨年4月7日～5月25日の宣言に続き2度目である。以後、3回（4月25日～6月20日）、4回（7月12日～9月30日）と矢継ぎ早に発出された。

昨年4月に緊急事態宣言が発出されて以来、非日常的生活が続いている。人生の節目である入学式、卒業式、成人式が中止され、恒例の歓送迎会、忘年会、新年会なども中止となった。

無観客で開催されたオリンピック、パラリンピックはテレビ観戦となり何処か外国で行われているかのような錯覚を起こさせた。期間中、業界に対し時短営業、イベントの中止などの要請と共に個人の行動に対し“自粛”という呪文がかけられたのである。

“3密”を避けて行動すればある程度自由ですが、施設入所者の皆様にとっては面会（老健ではタブレットによる面会施行）、外泊・外出は中止。人気のあった昼休みの週2回の麻雀の中止。ボランティア活動も中止となり書道教室、華道教室も中止せざるを得なくなった。外部からの新鮮な刺激がなくなったごく限られた空間での生活となり不自由をおかけしております。

10月末には東京都の新規感染者数が50人を下回り全国でも200～300人と改善しています。

この状態が継続し来年こそは非日常的生活から早く抜け出したいものです。